

石前 聖香 旭川大会実行委員長 挨拶

全道各地区校長会の皆様、おはようございます。旭川大会実行委員会を代表してひと言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大から2年余りが経過しました。「新しい生活様式」が定着し、徐々にポストコロナの社会を見据えた動きも進展しつつあるところですが、一方、感染症の終息については未だ先の見えない状況が続いています。

このような中、第65回北海道小学校長会教育研究旭川大会は、全国連合小学校長会の研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を受け、「ふるさとに誇りと愛着をもち ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」を副主題に設定し、学校経営の責任者である校長の果たす役割と指導性の究明に向け、3年ぶりの参集型開催の実現を目指してまいりました。しかしながら、感染状況と本道の広域性を鑑み、会員の皆様の健康と安全を第一に考え、開催方法を変更することとなりました。参集規模を大幅に縮小し、全道各地区校長会の皆様方を旭川市に盛大にお迎えすることが叶わず、残念な思いはありますものの、令和3年度石狩・千歳大会の成果を受け継ぎ、研究・交流の一層の充実・深化を図ることができるよう、会々とZOOM会議システムによるハイブリッド開催の成功に向け、大会実行委員会の総力をあげて準備を進めてまいりました。

本研究大会は、「校長の職能向上」と「北海道教育の振興・発展」を目指す北海道小学校長会の根幹を支える活動です。改めて、本大会を開催する機会を賜りましたことに、重責を感じますとともに、深く感謝を申し上げる次第です。

旭川市内を流れる川の数は約170、架かる橋は700を超え、川のまちと呼ばれる旭川市は、橋のまちでもあります。橋が架かることによって地域がつながり、社会・経済・教育・産業の発展とともに、新しい文化・未来が創造されます。旭川大会では、道小会員の皆様が一丸となって取り組む貴重な研究の成果が、「人と人をつなぐ架け橋、次代を担う子どもたちの笑顔と希望への架け橋」となり、そして、子どもたちが力強く「未来を創り出す」担い手となってほしいという願いを込めた大会にしたいと考えています。

本日は、全国連合小学校長会長 大字弘一郎（おおじ こういちろう）様からの当面の諸課題に係る最新情報のご提供と、分科会での全道各地区からの貴重なご提言をもとに、会員同士が画面上ではあっても互いに顔を合わせ声を聴き合うことを通じて、研究と交流を深め、確かな思いをつなぐことができるよう、精一杯のおもてなしの心で運営等に力を尽くしてまいります。何かと行き届かぬ点もあろうかと存じますが、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、大会の開催にあたり、ご指導とご助言を賜りました北海道教育庁をはじめ、旭川市及び旭川市教育委員会、並びに全国連合小学校長会、北海道小学校長会、関係諸団体の皆様に心から感謝申し上げますとともに、コロナ禍が終息した際には、ぜひ皆様に旭川市にお越しいただける日が来ることを願い、大会実行委員会を代表しての挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。